

令和6年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間・最終)

東畑中学校区 校番 9 学校名 呉市立原小学校

<p>a 学校教育目標</p>	<p>賢く 優しく 逞しく ～進取 礼節 求学～</p>	<p>b 経営理念 ミッション・ビジョン</p>	<p><ミッション>知・徳・体の基礎・基本を身に付けるとともに自分や(学校の使命)学校、郷土を誇りに思える児童の育成 <ビジョン>子供が行きたいと思う学校 教職員が働きたいと(将来の学校像)思う学校 保護者が通わせたいと思う学校 地域が誇りに思う学校</p>
<p>c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点</p>	<p>・学校教育目標を「賢く 優しく 逞しく」と位置付け、知・徳・体のバランスのとれた児童生徒の育成を目指す。 ・東畑中学校区の校訓である「進取・求学・礼節」を各取組と関連させ小中が一貫してブレのない徹底的な指導を行う。とりわけ、中学校区で意識統一した「礼節」について全教職員が同じ方向で指導を続ける。 ・今年度は授業プログラムの提示や、家庭学習の強化等、個に応じた指導や、やらせ切る指導を徹底させ、学力の回復に重点を置く。</p>		

<p>育成を目指す資質・能力</p>	<p>知識・技能 思考力・判断力・表現力 主体性・感謝・貢献</p>
--------------------	------------------------------------

評価計画(中期経営目標を設定してから 1・2・3 年目)						自己評価					
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策(こんなことをして達成します)	g 指標(効果を見とる目安)	h 目標値	上半期			下半期		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
***	① 学力の向上を図る。	・基礎的・基本的な学力をつける。	・授業プログラム(学習の見通しをもてるように授業の流れを提示する)等、個を大切に支援を取り入れた授業を行う。 ・ミニテストの実施やQubenaを活用する等、課題に応じた個別支援を行う。 ・東畑中学校区の「学びのすすめ」を基にした家庭学習に取り組ませる。また、家庭学習の強化週間を設定する。	・国語科、算数科の学期末テストにおいて知識・技能が80点を上回る児童の割合 ・標準学力調査[基礎]において昨年度平均より1ポイント上回る学級の割合	90						
		・思考力・判断力・表現力をつける。	・児童の主体的な学びを実現する「考える授業づくり」を実施する。 ・再思考の場面を取り入れる。 ・算数科の授業公開を行い、教員の授業改善及び指導力向上を図る。 ・視点に沿った振り返りや理由の伝え方を確実に指導する。	・国語科、算数科の学期末テストにおいて思考力・判断力・表現力が80点を上回る児童の割合 ・標準学力調査[活用]において昨年度平均より1ポイント上回る学級の割合	90						
**	② 自尊感情・自己有用感を高める。	・感謝の心を持つことができる。	・地域の方や保護者・中学生と関わる機会を意図的・計画的に設ける(原っ子花ハート等) ・他学年と積極的に関わる場を意図的・計画的に設ける。(縦割り遠足・縦割り活動等)	・児童アンケートによる肯定的評価 「自分の住んでいる地域のことが好きである。」	95						
		・自信をつける。	・児童が目標を持って努力する場、成功体験を得ることのできる場を多く設定する。そして頑張りや達成した成果を認める場をつくる。(はらっ子賞・マイスター等) ・「時を守り、場を清め、礼を正す」指導を徹底させる。	「クラスや自分の目標を達成したと思う。」 「自分にはよいところがある。」 「自分のよさは、まわりの人から認められている」 「学校のきまりを守っている」 教職員の観察による評価	95						
*	③ 基本的生活習慣の定着と体力の向上を図る。	・規則正しい生活習慣の定着を図る。	・生活づくり週間やノーメディアデーに取り組むことで生活習慣やメディアとの付き合い方を振り返らせる。 ・通信やHP等を活用し、家庭を巻き込んだ取組を行う。	・「生活づくり週間」中に3色そろった朝ご飯を4日以上食べた児童の割合 ・「生活づくり週間」中に「寝る前1時間メディアから離れる」を4日以上達成した児童の割合	90						
		・安全への意識を高め、実践的な防災等の力をつける。	・地域や関係諸機関と連携し、避難訓練や防災に係る場の設定や学びの足跡を見える化する等、防災学習の環境を充実させる。 ・授業や行事の中に、自分の命を自分で守ることにつながる体験的な活動をより多く取り入れる。	・児童アンケートによる肯定的評価の割合 「災害時に避難する場所や避難の仕方が分かる」	100						
		・運動の習慣化を図り、体力を高める。	・体育科の授業の充実化を図ると共に、呉チャレンジマッチや体育朝会と有機的に関連付けることで、運動の日常化を図る。	【上半期】 ・新体カテスト(ソフトボール投げ・20mシャトルラン)でC判定以上の児童の割合 【下半期】 ・呉チャレンジマッチで入賞した学年の割合	70						
業務改善	・原小学校に勤務してよかったと感ずることができる教育環境整備を行う。	・児童と向き合う時間を確保する。	・各取組と学校教育目標及び教育課程との関連を一層図るとともに、優先順位等、業務遂行のスキルを上げる。	時間外在校等時間1月40時間を超えない教職員の割合(年平均)	80						
	・助け合い支え合える組織を構築する。	・校内の課題に適した研修を設けたり、チームで企画対応する場を増やしたりすることで学び合う機会をもつ。	「日々の業務に充実感を感じる」と答えた教職員の割合	100							

[k: 評価]
A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成) <100
C: 60≦(もう少し) <80 D: (できていない) <60